

2025年度 入学者選抜

学校推薦型選抜

小論文 60分

(9:00 ~ 10:00)

注意事項

- 1 受験票は、机に貼ってあるラベルにはさみ、許可されたもの以外は、机の上に置かないこと。なお、携帯電話・スマートフォン・ウェアラブル端末等の電源は切ること。
- 2 開始の合図があるまで、試験問題、解答用紙及び下書き用紙に手をつけないこと。
- 3 開始の合図があったら、最初に試験問題及び解答用紙に落丁や印刷の不鮮明なところがないかどうか調べ、もしあれば申し出ること。
落丁等がなければ、直ちに解答用紙の指定した欄に、「受験番号」、「氏名」を記入すること。
- 4 試験問題は1～2ページである。試験問題の余白は、下書き・メモに使用してよい。
- 5 解答は、解答用紙の指定された解答欄に黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入すること。
- 6 解答用紙には、所定の欄以外の場所に、何も書かないこと。
- 7 途中退場は許可しない。
- 8 試験問題について不明な点がある場合は、静かに手を挙げること。ただし内容に関する質問には応じない。
- 9 気分が悪くなった時や、トイレに行きたい時などは手を挙げること。
- 10 不正行為があると認められた場合は、直ちに退場させる。
- 11 終了の合図があったら、解答用紙のみ、表を上にして机の端に置き、試験監督者の指示を待つこと。試験問題及び下書き用紙は持ち帰ってよい。

問 次の文章を読んで後の問いに答えよ。

友達のありがたさを実感する瞬間はいくつもあるけれど、そのなかでもかなり大切なのが、1一緒に事実や記憶の確認ができるということじゃないかと思う。それは、なにも特別な思い出じゃなくていい。

十代のころの話だ。仲良しの友達と遊ぶ約束をする。待ち合わせを決めて数人で集まる。するととたんに、「ねえ、あれって……」「あのときって……」という話がはじまる。

たとえばその年のお正月に L ちゃんから私に届いた年賀状の話である。年賀はがきの表面を墨汁で埋め尽くすほど勢いよく、太い筆で書かれた表書きの字。住所はかろうじて読めるように書いてあったが、宛名には私のニックネームしか書いてなかった。「なっく様」、以上。「笑っちゃった、よくあれで無事に届いたね」と言うと、L ちゃんは「そう！ あれね、届くかなって思って」といたずらっぽく笑い返す。もし届かなかったらどうするんだと訊くと、「べつに、年賀状が届かなくて困るようなカンケーでもないじゃん」という答えが返ってきた。2私はその言葉に妙に感心してしまった。確かにもし年賀状がその子のもとに戻ってしまったら、それはそれで届かなかった年賀状を見て笑えばいいのである。これがたとえば先生とか親戚とかだとそうはいかない。前提としてきちんと宛名を書くだろうし、もしなにかの間違いで戻ってきたらその事情を説明する必要がある。先生や親戚（あるいは大人なら仕事のつきあいの相手）に送る年賀状には年賀状本来の役割があり、年賀状にはその役割を果たしてもらわなければならない。けれども本来の役割が果たせなくてもかまわない、年賀状が届いても戻ってきても楽しいのが、友達という関係なのだ。

そこには単に気が合うとか互いに好感を持っているというだけではない、いつでも「ねえ、ちょっとまえの話だけど、あのときって……」「ああ、あれね。実はあのとき……」という会話ができるような心理的な近さがあり、同時にその会話によって「へえ、あの言葉の（あるいは行動の）意味はそういうことだったのか」と、いくらでも認識を変えていけるだけの気持ちの余裕がある。いちど受けた印象や解釈をあえて固定させず、いつか確かめあうときのためにとっておく。ごく親しい人との関係だけにある、いわば「充分な余白」とでもいおうか。

この3「余白」を確認しながら埋めあっている時間って、すごいと思う。たとえば誰かどこかへ遊びに行く。音楽のコンサートでもいい。モスクワにいたころ、私の通う文学大学から歩いていけるところに音楽大学があり、その学生たちがよくピアノなどのコンサートを無料でひらいていたので、たまに学校帰りに友達数人と聴きにいった。コンサートが終わると雪の凍る道をつるつると滑りながら地下鉄まで歩き、「よかったね」と言いあって家路につく。でもなんだか寂しくて、ちょっと物足りない。この日の目的は「コンサートを聴くこと」で、それは果たした。これはさっきの年賀状のたとえでいうなら、年賀状そのものの役割に値する。だけど友達と行ったコンサートの役割は、コンサートそのものだけじゃない。あとになってその日の話をすると、いつだって思ったよりもたくさんの「ほんとうはあのとき……」が出てきてびっくりする。コンサートそのものにしても、行き帰りのできごとにしても、同じ場所にいたのにまったく違うことに気づいていたり、違うものを見ていたりする。あるいは当日慌ただしく話していた会話の内容も、もういちど聞くとどこかで相手の発言やその真意を誤解していたと気づくこともある。それらをひっくり返して確かめてみてようやく、一緒に行けてほんとうによかったな、と実感する。そして、「ああそうだ、あのとき同じ場所にいたという事実だけでは物足りなかった理由はこれだったんだ」と思う。

あけておいた余白がずっと埋まっていく。

体験したことの記憶をひっぱりだしあって、その人がなにを感じていたのかを共有するとき、はじめてその体験が完全なものになっていくあの喜びって、なんていうんだろう。認識を新たにしていくことで自分の中身が少しずつ変わっていくような感覚は、いつ体験しても新鮮な驚きに満ちている。

けれども、子供のころにはいくらでもあったはずのそんな「余白を埋めあう」ひとときがいつからか減っていき、4 気づけばなんだか贅沢品ぜいたくのようになっている。大人になっても友達が大切であることには変わらないのだけれど、年賀状が戻ってしまっても笑いあえるほどの距離を保つのは、ときに難しい。互いの忙しさの合間に会える機会があればすごく嬉しいけれど、嬉しいからこそなるべく意識を研ぎ澄ませて相手の状態を知ろうとし、(できているのかどうか自信はないけれど)できるだけ誤解のない言葉を選び、比較的楽に共有できるものを共有することに甘んじてしまう。役割のあるものにはその本来の役割を、まずは担わせようとしてしまう。

現代はメールに加えさまざまなメッセージアプリなどの手段があり、東京の友達ともモスクワやペテルブルグの友達ともフランスの友達とも、その気になればいつでも短い言葉を交わしあえる。たとえ時差が五時間あっても七時間あっても、写真を送ったり励ましあったりできる。便利だし、ありがたい。大学時代の友達がフランスから送ってくれた幼い娘の写真など、愛しくてつい何度も眺めている。

だけどそれらの短い言葉や写真で伝えられる情報には、「余白」を理解するための情報、つまりは背景を伝えるものがとても少ない。不思議に思ったことがあるときは、わずかな言葉に意識を集中させてなるべく正確に伝わるように聞き返してもみるが、それを受けとった相手がどんな顔をしているのかわからない。そんなふうに焦ってしまうと、「余白」は埋まるどころか、ただつかみどころのない空間が広がっていくだけのように感じることもすらある。もちろんふだんからいつも「背景の情報が少ないなあ」などと不満を感じているわけではない。互いの状況がだいたいわかっていて、なにかあったら次に会ったときに確かめればいいと思えるような場合であれば、他愛ないやりとりもまた楽しいものだ。

(奈倉有里『文化の脱走兵』による)

問1 下線部1「一緒に事実や記憶の確認ができる」と同じ内容の部分を文章中から40字以内で抜き出ささい。

問2 下線部2「私はその言葉に妙に感心してしまった」とある。筆者が「その言葉」に「感心してしまった」のはどうしてか。文章中の語句を使って答えなさい。

問3 下線部3「「余白」を確認しながら埋めあっている時間って、すごいと思う」とある。

「「余白」を確認しながら埋めあっている時間」が筆者にもたらしたものを端的に表現している箇所を文章中から35字以内で抜き出ささい。

問4 下線部4「気づけばなんだか贅沢品ぜいたくのようになっている」とある。「贅沢品ぜいたくのようになっている」とは、どういうことか。文章中の言葉を使って説明しなさい。

問5 「余白」についてのあなたの考えを問題文の内容に触れながら600字以内で述べなさい。

受験番号					
氏名					

2025 年度入学者選抜 学校推薦型選抜
小論文 解答用紙

問 1

体	験	し	た	こ	と	の	記	憶	を	ひ	っ	ぱ	り	だ	し	あ	っ	て	、
そ	の	人	が	な	に	を	感	じ	て	い	た	の	か	を	共	有	す	る	

問 2

本来の役割が果たせない年賀状が相手から届いても楽しく思えることが友達関係であることに気づかせてくれたから。

問 3

認	識	を	新	た	に	し	て	い	く	こ	と	で	自	分	の	中	身	が	少
し	ず	っ	変	わ	っ	て	い	く	よ	う	な	感	覚						

問 4

「余白」を埋め合うだけの心理的な近さや時間的な余裕をもつことができなくなっているということ。
--

問 5

*採点基準

○文章構成

○文章表現

○説明内容

- ・「余白」をどのようなものとしてとらえているか。
- ・「余白を埋め合う」ことの意味を考えているか。
- ・「余白を埋め合う」とコミュニケーションに対する自分の意見を述べているか。
- ・問題本文の内容に触れているか。

2025年度入学者選抜 問題（学校推薦型選抜・小論文）について

【出題意図】

本書は、ロシア文学研究者としての筆者が、多くのロシアの詩人や文学者の作品や言葉を考察しながら、ロシアのウクライナ侵攻が続くなかで人間と平和と戦争の関わりについて文芸誌に連載した文章群がもとになっている。本書タイトルには、戦争状況下で文化の担い手にできることはただ武器を捨てて文化の本来の役割を大切に抱えたままどこまでも逃げることだけだ、という意味あいが見込まれているという。人と人をつなぐ「文化の本来の役割」とは何かということ、穏やかな筆致で読者に問いかける著作である。

問題本文は、一緒に事実や記憶の確認ができるということこそが友達関係の大切さであるということ、筆者自身の子ども時代・学生時代の記憶・経験やロシアの作家とやりとりしたことなどをもとに具体的に考察された箇所を用いた。「ほんとうはあのとき……」という語句を枕にして「あのとき」に見聞したことや感じたこと・考えたことを共有することは、他の人の見方を知ることと同時に、そこで語られた事実や記憶を確認し、自分自身の内部でものの見方（認識）の変容を導き、新しい発見の驚きをもたらすという問題文の趣旨は、現代社会での人間関係のなかで生きる受験生が、これから専門的な知識や技術を学ぶ意義を考え、自身の将来の専門職での対人コミュニケーションを考える契機となることが期待される。

2025年度 入学者選抜

一般選抜

国語 60分

(9:00 ~ 10:00)

注意事項

- 1 受験票は、机に貼ってあるラベルにはさみ、許可されたもの以外は、机の上に置かないこと。なお、携帯電話・スマートフォン・ウェアラブル端末等の電源は切ること。
- 2 開始の合図があるまで、試験問題及び解答用紙に手をつけないこと。
- 3 開始の合図があったら、最初に試験問題及び解答用紙に落丁や印刷の不鮮明などところがないかどうか調べ、もしあれば申し出ること。
落丁等がなければ、直ちに解答用紙の指定した欄に、「受験番号」、「氏名」を記入すること。
- 4 試験問題は1～2ページである。試験問題の余白は、下書き・メモに使用してよい。
- 5 解答は、解答用紙の指定された解答欄に黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入すること。
- 6 解答用紙には、所定の欄以外の場所に、何も書かないこと。
- 7 途中退場は許可しない。
- 8 試験問題について不明な点がある場合は、静かに手を挙げること。ただし内容に関する質問には応じない。
- 9 気分の悪くなった時や、トイレに行きたい時などは手を挙げること。
- 10 不正行為があると認められた場合は、直ちに退場させる。
- 11 終了の合図があったら、解答用紙のみ、表を上にして机の端に置き、試験監督者の指示を待つこと。試験問題は持ち帰ってよい。

問 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。解答は、全て解答用紙に書くこと。

私たちは問題解決で速度を優先しがちである。速度が強調されると、学校のペーパーテストがそうであるように、まず問題設定で問題そのものをマークシート対応に単純化してしまう。たしかに単純な問題なら解決も早い。しかし、歴史家として繰り返し述べてきたように、情報の真偽は単純化しなくても時間の経過によって自ずから明らかになる場合が圧倒的に多い。その意味で、あいまい情報の前では **a** セイキュウ に判断せず、保留したまま不確実な状況に耐えることが重要なのである。

それが「答えの出ない **b** ジタイ に耐える力」である限り、前節で紹介した「ネガティブ・ケイパビリティ」(帯木蓬生)と同じものと言えるだろう。この概念が二つの世界大戦に従軍した精神分析学者ビオンによって再発見されたものだとすれば、ホガートも第二次世界大戦に従軍した英文学者なので、「ネガティブ・ケイパビリティ」をあるいは知っていたのかもしれない。

ホガートは労働者階級文化の知恵、「人びとの黙って無視するという偉大な能力、ただ影響を受けたふりをして、物事を「**c** 成行きに^{まか}せる」というやり方」に高い評価を与えている。すばやく問題を解決してしまう学校秀才たちとはちがって、「本当に求めるものは吸収し、どうでもいいものは成行きにまかせる能力」が労働者階級にはいくぶんなりとも **d** オンゾン されているというのだ。この能動的に採用された「成行きにまかせる能力」を、ホガートは道徳的資質として **e** ショウサン する。

かれらには「耐えを忍ぶ」能力があるが、これは単に受動性からくるものではなく、それが、人たるものがそこから始まるべき地点、つまり、人は多くのものを耐え忍ばねばならない——これに類した古風な言い回しをすれば、笑って耐える——という想定からくる。

こうした **1** 能動的な「耐えを忍ぶ」読み書き能力 を私はネガティブ・リテラシーと呼ぶわけだが、この能力があればデジタル資本主義社会の広告や「ポスト真実」時代の **A** プロパガンダ を適当にやり過ごす生活は可能である。ここにホガートがリードした文化研究から生まれたアクティブ・オーディエンス(能動的視聴者)論の新たな可能性も見えて来るのではあるまいか。

アクティブ・オーディエンスは、ホガートの後継者となったスチュアート・ホールの「**2** エンコーディング(記号化)/デコーディング(解読)モデル」で説明されることが多い。メディアの受け手はただ受動的に情報に接するわけではなく、個人的および社会的な文脈から支配的/**f** ダキョウ 的/対抗的な解釈コードを選んだ上でメッセージを理解している。テレビを視聴するアクティブ・オーディエンスが「テレビの読み手」と意識できるように、その能動的モデルは書物の **B** 閲読 にも当てはまる。**3** そもそも書物の意義は、著者よりも読者によって決定されている。その書物が「名著」か「駄本」か、「良書」か「悪書」か、その社会的評価を決めるのは、著者の力量ではなく読者の態度である。つまり、読者が採用する解読コードによって、同じ本は良書にも悪書にもなる。メディアリテラシー教育の現場では、批判的なコードを身に付けた良きオーディエンス(読者)を育てることが目標に **g** 掲げられる。だが、万人が「万能の市民」になれるという幻想を前提とすると、**4** その教育は希望ではなく絶望を生むのではないか。

むしろ、解釈コードを選ぶ手前で、あいまい情報を聞き流し見流す術、つまりネガティブ・リテラシーこそアクティブ・オーディエンスに必要なのではないか。ホガートはかつての労働者階級文化には大衆文化商品を受け流す「道徳的資本」が存在したというのである。

その結果労働者階級は、さもなくば受けたであろうほどには、それらのものから影響を受けていないのである。もちろん問題は、この道徳的資本の在庫がいつまで続くか、また十分に更新されうるか **h** 否か、にある。しかしわれわれは、現在における、

この **i 元手** の影響力を過小評価しないよう注意しなければならない。

ネガティブ・リテラシーを「道徳的資本」と評価するのであれば、それはおよそパッシブ(受動的)ではなくアクティブ(能動的)に選び取られるものだろう。それは **5 学校秀才の** パッシブ・リテラシー に劣るものではないのである。

そうした「道徳的資本の在庫」は、労働者階級文化だけに求めるべきものでもない。むしろ、一般的な生活者にファクト・チェックが困難である以上、専門的にそれに従事する専門家の役割は重い。ジャーナリストの仕事でも、これからは情報の取材や伝達より情報の分析や検証に重心が移っていくだろう。そこで必要となるのがクリティカルシンキングであり、それを「耐性思考」と呼びうるとすれば、**6 知識階級における「耐えを忍ぶ」能力**は古典に学ぶ伝統の中で **j 育**まれてきたと言えるのではあるまいか。

(佐藤卓己『あいまいさに耐えるーネガティブ・リテラシーのすすめ』による)

* 帯木蓬生…小説家、精神科医。著書に『ネガティブ・ケイパビリティー答えの出ないジタイに耐えるカー』(2017)がある。

* ホガート…リチャード・ホガート。イギリスの大衆文化研究者。

問 1 下線部 a・b・d・e・f のカタカナ部分を漢字で書きなさい。

問 2 下線部 c・g・h・i・j の読みを平仮名で書きなさい。

問 3 下線部 A・B の意味として最も適当なものを一つずつ選び、記号で答えなさい。

A プロパガンダ (イ 政策 ロ 宣伝 ハ 情報 ニ 報道)

B 閲読 (イ 楽しみながら読むこと ロ 考えながら読むこと
ハ 調べながら読むこと ニ 書きながら読むこと)

問 4 下線部 1 「能動的な「耐えを忍ぶ」読み書き能力」とほぼ同じ意味の言葉を本文中から 15 字で抜き出さなさい。

問 5 下線部 2 「エンコーディング(記号化)/デコーディング(解読)モデル」の説明として最も適切な一文を本文中から抜き出して、最初と最後の 5 文字を書きなさい。

問 6 下線部 3 「そもそも書物の意義は、著者よりも読者によって決定されている」とはどういうことか。本文中の語句を用いて説明しなさい。

問 7 下線部 4 に「その教育は希望ではなく絶望を生むのではないか」とある。メディアリテラシー教育が、万人が「万能の市民」になれるという幻想を前提とすると、なぜ「絶望を生む」のか。本文中の言葉を用いて説明しなさい。

問 8 下線部 5 「学校秀才のパッシブ・リテラシー」の特徴を端的に示した部分を本文中から 15 字以内で抜き出さなさい。

問 9 下線部 6 「知識階級における「耐えを忍ぶ」能力」は、労働者階級の「耐えを忍ぶ」能力とどのような点において異なるのか。

(1) 労働者階級の「耐えを忍ぶ」能力の説明として最もふさわしい部分を本文中から抜き出さなさい。

(2) 知識階級の「耐えを忍ぶ」能力について本文中の語句も用いつつ説明しなさい。

受験 番号					
氏名					

2025 年度入学者選抜 一般選抜
国語 解答用紙

● 解答はすべて横書きで記すこと。

問1

a	性急	b	事態	d	温存	e	称賛（賞賛）	f	妥協
---	----	---	----	---	----	---	--------	---	----

問2

c	なりゆ	g	かか	h	いな	i	もとで	j	はぐく
---	-----	---	----	---	----	---	-----	---	-----

問3

A	□	B	ハ
---	---	---	---

問4

あ	い	ま	い	情	報	を	聞	き	流	し	見	流	す	術
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問5

メ	デ	ィ	ア	の	～	解	し	て	い	る
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問6

書物の社会的評価は著者の力量ではなく、読者が採用する解読コードによって決定するということ。

問7

万能になれるという幻想を前提にすると、不確実な状況や答えの出ない事態に遭遇したときにそれに耐えられなくなってしまうから。

※「社会的評価が定まらずに、対立を生むことになるから。」も可

問8

す	ば	や	く	問	題	を	解	決	し	て	し	ま	う	
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--

問9

(1) 本当に求めるものは吸収し、どうしてもいいものは成行きにまかせる能力

(2) あいまいな情報の前では性急に判断せず、情報の分析や検証を積み重ねつつ、答えの出ない事態に耐える能力。

2025年度入学者選抜 問題（一般選抜・国語）について

【出題意図】

本書は、現在の政治状況や流言やデマが溢れるネット状況に対して、あいまい情報や不確実な状況に耐える消極的な読み書き能力（ネガティブ・リテラシー）の必要性を説く。

問題本文はイギリスの大衆文化研究者リチャード・ホガートの『読み書き能力の効用』を引用しつつ、労働者階級文化が有する成りゆきに任せる「耐えを忍ぶ」能力が、アクティブオーディエンス（能動的視聴者）には必要であることを述べた箇所を用いた。SNS上のデマや虚実ないまぜの情報が大量にあふれ、先行きも見通せない状況のなか、あいまいな情報や不確実な状況にどのように対処すべきかを説く本書の内容は、いまの時代を生きる受験生にも考えてほしい問題である。

なお、文中に引用される帯木蓬生『ネガティブ・ケイパビリティ 答えの出ない事態に耐える』（朝日選書 2017）は2018年度の本学一般試験問題として出題したものである。

2025年度 入学者選抜

一般選抜

数学（数学Ⅰ・数学A） 60分

（ 10:45 ～ 11:45 ）

注意事項

- 1 受験票は、机に貼ってあるラベルにはさみ、許可されたもの以外は、机の上に置かないこと。なお、携帯電話・スマートフォン・ウェアラブル端末等の電源は切ること。
- 2 開始の合図があるまで、試験問題及び解答用紙に手をつけないこと。
- 3 開始の合図があったら、最初に試験問題及び解答用紙に落丁や印刷の不鮮明などところがないかどうか調べ、もしあれば申し出ること。
落丁等がなければ、直ちに解答用紙の指定した欄に、「受験番号」、「氏名」を記入すること。
- 4 試験問題は1～4ページである。試験問題の余白は、下書き・メモに使用してよい。
- 5 解答は、解答用紙の指定された解答欄に黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入すること。
- 6 解答用紙には、所定の欄以外の場所に、何も書かないこと。
- 7 途中退場は許可しない。
- 8 試験問題について不明な点がある場合は、静かに手を挙げること。ただし内容に関する質問には応じない。
- 9 気分の悪くなった時や、トイレに行きたい時などは手を挙げること。
- 10 不正行為があると認められた場合は、直ちに退場させる。
- 11 終了の合図があったら、解答用紙のみ、表を上にして机の端に置き、試験監督者の指示を待つこと。試験問題は持ち帰ってよい。

I 以下の問いに答えなさい。

[1] x は実数とするとき、次の問いの に入る適切なものを、下の4つの選択肢①～④の中から選び、記号で答えなさい。

(1) $x = -3x$ は、 $x^2 = 0$ であるための (1)

(2) $x^2 = 9$ は、 $x = 3$ であるための (2)

(3) $x < 2$ は、 $|2x - 1| < 3$ であるための (3)

(4) 四角形 ABCD が平行四辺形であることは、四角形 ABCD が台形であるための

(4)

選択肢

- ① 必要条件であるが、十分条件ではない。
- ② 十分条件であるが、必要条件ではない。
- ③ 必要十分条件である。
- ④ 必要条件でも十分条件でもない。

[2] 次の問いの に入る適切な文または語を答えなさい。

(1) n は自然数とする。命題「 n^2 が偶数ならば、 n は偶数である。」の対偶は「 (5)」で、その真偽を調べると (6) であるといえる。

(2) a, b は自然数とする。命題「 $a + b$ が奇数ならば、 ab は奇数である。」の真偽を調べると (7) であるといえる。この命題の逆は「 (8)」で、その真偽を調べると (9) であるといえる。

(3) 命題「2人が合わせて1万円もっているならば、少なくとも1人は5千円以上もっている。」の真偽を調べると (10) であるといえる。

Ⅱ 以下の問いの に入る適切な数を答えなさい。

〔1〕 下のデータは、12人の生徒のハンドボール投げの記録である。

19, 16, 18, 14, 17, 14, 19, 14, 18, 12, 17, 14 (m)

(1) 平均値は m, 中央値は m,

最頻値は m である。

(2) 分散は である。

〔2〕 3本の当たりくじを含む10本のくじの中から、引いたくじはもとに戻さないで、

A, Bの2人がこの順に1本ずつくじを引く。

(1) Aが当たる確率は である。

(2) Bが当たる確率は である。

(3) A, Bのいずれか1人だけが当たる確率は である。

Ⅲ 以下の問いの に入る適切な数または式を答えなさい。

[1] 2次関数 $y = x^2 - 2x - 2$ のグラフの軸は直線 (18) , 頂点は点 ((19) , (20)) である。

この2次関数 $y = x^2 - 2x - 2$ のグラフは, 2次関数 $y = x^2$ のグラフを x 軸方向に (21) , y 軸方向に (22) だけ平行移動したものである。

2次関数 $y = x^2 - 2x - 2$ の $-1 \leq x \leq 4$ における最大値は (23) , 最小値は (24) である。

[2] a, b は定数, 2次関数 $y = x^2 + ax + b$ のグラフが点 $(-1, 1)$ を通るとき, $b =$ (25) であるから, a を用いて $y =$ (26) と表される。

よって, このグラフの頂点は点 ((27) , (28)) である。

これより, この2次関数 $y =$ (26) の $-1 \leq x \leq 4$ における最小値 m が $-3 \leq m \leq 0$ の範囲内にあるように, 定数 a の値の範囲を定めると,

(29) となる。

IV 以下の問いの に入る適切な数を答えなさい。

三角形 ABC において、 $AB = \sqrt{2}$ 、 $\cos \angle BAC = -\frac{\sqrt{2}}{4}$ 、外接円 O の半径

$R = \frac{2\sqrt{2}}{3}$ とする。

このとき、 $\sin \angle BAC =$ (30) $,$ $BC =$ (31) $,$

$CA =$ (32) である。

よって、三角形 ABC の面積は (33) である。

また、三角形 ABC の外接円 O の中心に関して点 A と対称な点を D とすると、

$BD =$ (34) $,$ $CD =$ (35) $,$ $\sin \angle BCD =$ (36)

である。

よって、三角形 BCD の面積は (37) である。

以上のことから、四角形 ABDC の面積 S を求めると、

$S =$ (38) である。

数学解答例・配点および採点基準

2025年度入学者選抜 一般選抜

数学 解答用紙

I	(1)	③	(2)	①	(3)	①	(4)	②	小計
	(5)	n が奇数ならば、 n^2 は奇数である。			(6)	真	(7)	偽	
	(8)	ab が奇数ならば、 $a+b$ は奇数である。			(9)	偽	(10)	真	
II	(11)	16	(12)	16.5	(13)	14	(14)	5	小計
	(15)	$\frac{3}{10}$	(16)	$\frac{3}{10}$	(17)	$\frac{7}{15}$	小計		
III	(18)	$x=1$	(19)	1	(20)	-3			小計
	(21)	1	(22)	-3	(23)	6	(24)	-3	
	(25)	a			(26)	$x^2 + ax + a$			
	(27)	$-\frac{a}{2}$	(28)	$a - \frac{a^2}{4}$	(29)	$-2 \leq a \leq 0$			小計
IV	(30)	$\frac{\sqrt{14}}{4}$	(31)	$\frac{2\sqrt{7}}{3}$	(32)	$\frac{2}{3}$			小計
	(33)	$\frac{\sqrt{7}}{6}$	(34)	$\frac{\sqrt{14}}{3}$	(35)	$\frac{2\sqrt{7}}{3}$			
	(36)	$\frac{\sqrt{7}}{4}$	(37)	$\frac{7\sqrt{7}}{18}$	(38)	$\frac{5\sqrt{7}}{9}$			

2025年度入学者選抜 問題(一般選抜 数学)について

【出題意図】

問題Ⅰ～Ⅳまでの4題で、いずれも「数学Ⅰ」と「数学A」の内容にかかわる問題である。

「数と式」、「図形と計量」、「二次関数」、「データの分析」、および「場合の数と確率」についての基礎的な知識の習得と技能の習熟、数学的な見方や考え方の習得、およびそれらを活用して考察し表現する能力をみるために、以下の4題を出題した。

問題Ⅰの〔1〕〔2〕は、数学Ⅰの「数と式」について、集合と命題に関する基礎的な知識の習得と技能の習熟をみる問題である。

問題Ⅱの〔1〕は数学Ⅰの「データの分析」について、〔2〕は数学Aの「確率」について、基礎的な知識の習得と技能の習熟をみる問題である。

問題Ⅲは、数学Ⅰの「二次関数」とそのグラフについて、基礎的な知識の習得と技能の習熟、数学的な見方や考え方の習得、およびそれらを活用して考察し表現する能力をみる問題である。

問題Ⅳは、数学Ⅰの「図形と計量」について、三角比や正弦定理、余弦定理、および平面図形の性質などの基礎的な知識の習得と技能の習熟、数学的な見方や考え方の習得、およびそれらを活用して考察し表現する能力をみる問題である。

2025年度 入学者選抜

一般選抜

外国語（英語） 60分

(13:00 ～ 14:00)

注意事項

- 1 受験票は、机に貼ってあるラベルにはさみ、許可されたもの以外は、机の上に置かないこと。なお、携帯電話・スマートフォン・ウェアラブル端末等の電源は切ること。
- 2 開始の合図があるまで、試験問題及び解答用紙に手をつけないこと。
- 3 開始の合図があったら、最初に試験問題及び解答用紙に落丁や印刷の不鮮明などところがないかどうか調べ、もしあれば申し出ること。
落丁等がなければ、直ちに解答用紙の指定した欄に、「受験番号」、「氏名」を記入すること。
- 4 試験問題は1～6ページである。試験問題の余白は、下書き・メモに使用してよい。
- 5 解答は、解答用紙の指定された解答欄に黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入すること。
- 6 解答用紙には、所定の欄以外の場所に、何も書かないこと。
- 7 途中退場は許可しない。
- 8 試験問題について不明な点がある場合は、静かに手を挙げること。ただし内容に関する質問には応じない。
- 9 気分の悪くなった時や、トイレに行きたい時などは手を挙げること。
- 10 不正行為があると認められた場合は、直ちに退場させる。
- 11 終了の合図があったら、解答用紙のみ、表を上にして机の端に置き、試験監督者の指示を待つこと。試験問題は持ち帰ってよい。

I. 次の英文を読み、A～Bの質問に答えなさい。

Communal Sleeping

Communal sleeping – sharing a bed with other people – has an ancient history. Records show that even from the late Middle Ages in Europe it was common for people to share beds, often in groups. This custom was not limited to family members. Friends, co-workers, and even total strangers would often sleep in the same bed. The custom might seem strange to us today, but there were several reasons for it.

One of the main reasons was because of limited resources. Good-quality beds were expensive, and houses were often small, so sharing a bed helped people save space and money. However, even rich people shared beds – often with trusted friends. This may have been for companionship – for the pleasure of having someone to talk to – but it was also for warmth. Europe could be very cold, especially in winter, and most homes did not have proper heating. Sleeping close together helped people stay warm. This was especially important in large, old houses or inns where the cold wind could come through cracks in the walls.

Inns were typically small, with only a few beds available, so bed-sharing was a common practice. People would commonly lie side by side, often in a single large bed that could fit four or five people. This wasn't always an attractive arrangement – travellers who stayed in such accommodation often had to sleep with total strangers who were neither clean nor polite.

The 17th century English diarist, Samuel Pepys, often wrote of sharing a bed, with family members, friends, colleagues and strangers. His accounts give us many insights about the etiquette of sharing a bed. According to Pepys, excessive talking was discouraged, as was pulling the bedsheets to one's own side. It was considered polite to lie still and not kick or roll over too much. It was understood that everyone would stay fully clothed, especially when sharing with someone they didn't know. In cases where men and women shared a bed, a board would sometimes be placed in the middle of the bed to separate them.

Literature and history provide other examples of communal sleeping. A famous literary example is found in Melville's 19th century novel, "*Moby Dick*", in which the main character, Ishmael, was alarmed to learn that he had to share a bed with a heavily tattooed Pacific islander named Queequeg. Also in the 19th century, second U.S. president John Adams and his political rival, Benjamin Franklyn, found the inn where they stayed only had one bed available, so they spent the night together in the same bed. As on many issues, they had a disagreement – this time about whether the window should stay open or closed. Franklyn won and the window stayed open!

By the late 19th century, the custom of sharing beds began to fall out of fashion. Homes were getting larger, and more people could afford bigger houses with more rooms. Beds also became cheaper and more widely available, meaning that families could have separate beds for everyone. Advances in heating systems became more common, and people no longer needed to rely on body heat during cold nights.

Additionally, ideas about privacy and personal space began to change. The Industrial Revolution brought new wealth to the middle class, and with it, new ideas about comfort and individuality. Sharing a bed with others, especially strangers, came to be seen as unhygienic and improper. As society became more concerned with cleanliness and personal boundaries, the practice gradually

disappeared. By the 20th century, most people had their own bed, and the idea of communal sleeping had become outdated.

(594 words)

A. この英文の説明として適切なものを a~l の中から 4 つ選び、記号で答えなさい。

- a. Communal sleeping was only done by poorer members of society.
- b. People shared beds only for economic reasons.
- c. Houses and other buildings such as inns were generally well heated.
- d. Inns often had beds that could be used by several people at the same time.
- e. Sleeping with strangers was a common but not always enjoyable experience.
- f. Samuel Pepys limited his bed-sharing to close friends and family.
- g. When sharing a bed, having good manners was not always important.
- h. Sharing a bed made people warm so most people chose not to wear clothes in bed.
- i. Benjamin Franklyn argued with John Adams for the right to enjoy fresh air in the bedroom.
- j. In Europe, sharing beds continued to be a common practice until well after the late 19th century.
- k. In more recent times, attitudes changed and more people began sleeping alone.
- l. Even in the 20th century, communal sleeping continues to be practiced in many European hotels.

B. 次の 1, 3, 4, 6 の英文の質問に対して正しい答えを a~e の中から選び、記号で答えなさい。また 2, 5 の英文では本文の内容に合うように a~e の中から空欄 _____ に入る最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

1. The underlined word “co-workers” in paragraph 1 is similar in meaning to which word?

- a. acquaintances
- b. colleagues
- c. friends
- d. relatives
- e. siblings

2. Complete the sentence: “Many wealthy people could afford large beds and privacy, but still chose to sleep communally _____.”

- a. because that was what most people did in those days
- b. because they needed protection from robbers and thieves
- c. in order to enjoy time with friends and avoid the cold
- d. to provide a place for their servants and other employees to sleep
- e. to save money by not staying in hotels

3. According to the text, which of the following was considered good manners when sharing a bed?
- Being completely undressed in the bed.
 - Keeping people awake by being overly talkative.
 - Kicking your fellow bed sharers.
 - Lying still and not moving excessively.
 - Not sharing the bedsheets in a reasonable manner.
4. According to the text, which of the following statements is **NOT** true?
- Adams and Franklyn were probably not close friends and would have preferred not to share a bed.
 - Ishmael was shocked and concerned to learn that he was expected to share a bed.
 - Melville was the author of a book that referred to communal sleeping.
 - President John Adams wished to sleep with the window open.
 - The inn where Adams and Franklyn stayed could not accommodate them separately.
5. Complete the sentence: “According to the text, the custom of communal sleeping _____.”
- became less common when houses became cheaper and beds became more expensive
 - changed as a result of developments in housing, heating and social attitudes
 - fell out of favour in the 20th century as a result of political and economic developments
 - increased in the 19th century because of its popularity among writers and politicians
 - remains a popular way to stay warm in cold climates
6. The underlined word “unhygienic” in paragraph 7 is closest in meaning to which word?
- dangerous
 - expensive
 - ineffective
 - outdated
 - unclean

II. 次の英文で空欄 _____ に入る最も適切な語(句)を、a～eの中から1つ選び、記号で答えなさい。

1. Sandbags and concrete barriers were used to _____ the river bank.
- arranging
 - containment
 - divided
 - elevate
 - preservation
2. The standard of his work was _____ unacceptable.
- carefully
 - completely
 - poorly
 - reasonably
 - slowly

3. He'd never lied to us before, so we didn't _____ that possibility.
- consider
 - considerably
 - considerate
 - consideration
 - considering
4. We decided to use a more _____ approach with our family budget.
- create
 - created
 - creation
 - creationism
 - creative
5. When I got married I _____ still working in a bank.
- am
 - did
 - had
 - had been
 - was
6. I passed the test because I _____ really well for it.
- am preparing
 - did preparation
 - have prepared
 - prepare
 - prepared
7. Don't get so upset about it. Just take a deep _____ and tell me what happened.
- breath
 - breathe
 - breathes
 - breathing
 - breaths
8. Our 100-meter relay team was disqualified when it failed to _____ the baton.
- hand down
 - hand in
 - hand out
 - hand over
 - hand up

9. These days I've stopped using social media, _____ my circle of contacts is getting smaller.

- a. as
- b. because
- c. for
- d. so
- e. then

10. I need a degree in order to become a lawyer, _____ I've decided to go back to college.

- a. as
- b. because
- c. for
- d. so
- e. then

11. I really don't care _____ knows it. It's not a secret.

- a. what
- b. where
- c. which
- d. who
- e. whose

12. The prefix "multi" in the words "multilingual" and "multiply" is closest in meaning to _____.

- a. again
- b. all
- c. before
- d. many
- e. two

III. 1～3の会話を読み、空欄_____に入る最も自然な会話の応答となるものをa～eの中から1つ選び、記号で答えなさい。

1.

A: Is there any chance we could reschedule tomorrow's meeting?

B: _____

A: I was thinking the day after tomorrow, or even Friday.

- a. Can you let everyone know? Or have you already told them?
- b. I don't see any reason why not. Any particular time in mind?
- c. I don't think so. Have you done that before?
- d. Tomorrow's meeting was cancelled. Didn't you get the memo?
- e. When did you decide to do that?

2.

A: I'm so excited! I got tickets to see my favourite band!

B: _____

A: I did too, but I guess I just got lucky.

- a. I really don't like their music. Who are you going to see?
- b. I'm so pleased for you. I heard the tour was a sell-out.
- c. Oh! You're so lucky! I really want to go with you!
- d. Really? When are they playing?
- e. That's great news! I wanted to go but couldn't afford it.

3.

A: I'm so exhausted! I don't think I've ever worked so hard in my life!

B: _____

A: I know, but it won't always be like this ... will it?

- a. I know, maybe I should take a break.
- b. I think we've just hit a really busy time. It won't always be like this.
- c. It's a tough job. Would you like to take a break now?
- d. You should be careful not to overdo it.
- e. You're really tired, aren't you? Did you work here a long time?

受験 番号					
氏名					

2025年度入学者選抜 一般選抜
外国語(英語) 解答用紙

--

採点合計

I. A.

d	e	i	k
---	---	---	---

(なるべくアルファベット順に書いてください)

B.

1	2	3	4	5	6
b	c	d	d	b	e

--

Iの合計

II.

1	2	3	4	5	6
d	b	a	e	e	e

7	8	9	10	11	12
a	d	d	d	d	d

--

IIの合計

III.

1	2	3
b	b	d

--

IIIの合計

2025年度入学者選抜 問題（一般選抜 英語）について

【出題意図】

- I A. 文の真意を見分けることによる総合的な英語読解力を見る。
 - B. 内容を正確に把握するための十分な語彙力の有無と正確な文章理解力を見る。
 - 1. 正確な語彙力
 - 2. 英文の正確な読解
 - 3. 英文の正確な読解
 - 4. 英文の正確な読解
 - 5. 英文の精読と内容理解
 - 6. 正確な語彙力

- II 語彙力、文法、英文の正確な読解力を見る。
 - 1. 品詞の理解
 - 2. 副詞の理解
 - 3. 動詞の理解
 - 4. 形容詞の理解
 - 5. 動詞の理解
 - 6. 時制の理解
 - 7. 品詞の理解
 - 8. 熟語の理解
 - 9. 接続詞の理解
 - 10. 接続詞の理解
 - 11. 関係詞の理解
 - 12. 接頭語の理解

- III 日常会話でのやり取りの理解を見る。